

ロジックモデル点検結果  
コメントシート

	事業名	〇〇〇〇〇推進検討事業	
	担当部局	〇〇〇局〇〇〇課	
	予算規模（百万円）	〇〇百万円	
	事業区分	※当てはまるものに○	
		○	新規事業
			モデル事業
	大幅見直し施策		
	ロジックモデル提出日	2020/〇/〇〇 ※本シートの点検対象であるバージョンの提出日	

表の見方

→修正**必須**項目

○ 記入要領どおりに記載されていないため、修正が必要な項目

→修正**推奨**項目

○ 記入要領に沿って記載されているが、同要領の観点からは改善の余地があり、更なるエビデンスレベルの向上などが望ましい

→**未点検**の項目

○ 点検対象箇所への記入不備により、点検ができない項目

ロジックモデルp.1 現状分析・課題・事業概要

	対応 必須/ 推奨	点検結果	ロジックモデルの 点検対象箇所	チェックコメント	修正の方法・ヒント	【参考】 マニュアルの 対応するページ	【参考】 記入要領の 対応するページ	修正イメージ (リンク)	その他	再点検のために 修正が必要な項目 (「未点検」の場合)
1	必須	問題なし	現状分析	「現状分析」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、当該事業が求められる背景事情を説明する必要がある。 具体的には、「①エビデンスを用いて ②定量的に ③分析した」現状の記載となっているかを確認し、①～③の全てが満たされるように記載内容を見直す必要がある。	p.6f「3.EBPMで何ができるのか？」 p.12f「3.ロジックモデルの書き方・手順1 正しく現状把握・課題設定を行う」	p.2f「3.現状分析」			
2	必須	問題なし	現状分析	「現状分析」にエビデンスが記入されていない。	記入要領に従い、課題を説明するために必要なエビデンスを別紙に添付する必要がある。また、「現状分析」の記入内容を、そのエビデンスに基づき現状を分析した内容に修正する必要がある。 なお、事業の根拠が法令や計画等である場合にも、その背景となったエビデンス（又は、法令や計画等と関係はないが、事業の現状を示すエビデンス）を記入し、それに基づいた現状を分析した結果を示す必要がある。	p.18f「5.ロジックモデルの点検-よある間違い①」 p.20f「1.エビデンスとは何か？」 ※今回のロジックモデルにおける「エビデンス」は、マニュアルp.20下部に記載のある「定義のエビデンス」に定義されます。	p.2f「3.現状分析」	<a href="#">修正事例</a>		
3	推奨	問題なし	現状分析	「現状分析」に添付されたエビデンスのレベルを向上させることが望ましい。	現在記入しているエビデンスについて、エビデンスレベル1～3に向上させることが望ましい。 レベル1～3のエビデンスを新たに調べるとともに、そうした新たなエビデンスを踏まえても「現状分析」の記入内容が適切かどうか再検討することが望ましい。 <参考：エビデンスレベル> レベル1：ランダム化比較実験 レベル2a：差の差分分析、傾向スコアマッチング、操作変数法 レベル2b：重回帰分析、コホート分析 レベル3：比較検証、記述的な研究調査（※因果関係に関する分析を行わず、統計指標を時系列で比較しただけの場合など）	p.3f「1.EBPMとは何か？」 p.20-24f「第3章エビデンスとは」	p.2f「3.現状分析」	<a href="#">修正事例</a>		
4	推奨	問題なし	現状分析	「現状分析」の内容の根拠として、現在添付されている「エビデンス」より論理的に整合するエビデンスを設定することが望ましい。	「現状分析」の記載内容がエビデンスに基づき論理的な内容であるかを再度確認し、現在添付されている「エビデンス」より論理的に整合するエビデンスを設定することが望ましい。	p.8-14f「第2章ロジックモデルの活用1.なぜロジックモデルなのか？～3.ロジックモデルの書き方」 p.18-「5.ロジックモデルの点検-よある間違い①②」 p.20-25f「第3章エビデンスとは」	p.2f「3.現状分析」	<a href="#">修正事例</a>		
5	必須	修正対象	課題	「課題」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、事業の前提となる政策課題や社会問題を、エビデンスとともに説明する必要がある。 具体的には、「①エビデンスを用いて ②現状とあるべき姿を比較しながら ③現在の課題を解決すべきことを示した」記載となっているかを確認し、①～③の全てが満たされるように記載内容を見直す必要がある。	p.6f「3.EBPMで何ができるのか？」 p.9-10f「3.ロジックモデルとは何か？」 p.12-14f「3.ロジックモデルの書き方・手順1 正しく現状把握・課題設定を行う」	p.2f「4.課題」			
6	必須	問題なし	課題	「課題」の記入内容が「長期アウトカム」に対応していない。	「課題」に記入した内容が、事業の結果もたらされる「長期アウトカム」と対応関係にある必要がある。	p.13-14f「3.ロジックモデルの書き方・手順4 事業の実施前に、効果の検証方針を決めておく」	p.2f「4.課題」 p.3f「10.長期アウトカム」			
7	必須	問題なし	課題	「課題」にエビデンスが記入されていない。	記入要領に従い、「課題」を説明するために必要なエビデンスを別紙に添付し、それを踏まえた課題を記入する必要がある。	p.18f「5.ロジックモデルの点検-よある間違い①」 p.20f「1.エビデンスとは何か？」 ※今回のロジックモデルにおける「エビデンス」は、マニュアルp.20下部に記載のある「定義のエビデンス」に定義されます。	p.2f「4.課題」			
8	推奨	修正対象	課題	「課題」に添付されたエビデンスのレベルを向上させることが望ましい。	現在記入しているエビデンスについて、エビデンスレベル1～3に向上させることが望ましい。 レベル1～3のエビデンスを新たに調べるとともに、そうした新たなエビデンスを踏まえても「現状分析」の記入内容が適切かどうか再検討することが望ましい。 <参考：エビデンスレベル> レベル1：ランダム化比較実験 レベル2a：差の差分分析、傾向スコアマッチング、操作変数法 レベル2b：重回帰分析、コホート分析 レベル3：比較検証、記述的な研究調査（※因果関係に関する分析を行わず、統計指標を時系列で比較しただけの場合など）	p.3f「1.EBPMとは何か？」 p.20-24f「第3章エビデンスとは」	p.2f「4.課題」	<a href="#">修正事例</a>		
9	推奨	修正対象	課題	「課題」の内容の根拠として、現在添付されている「エビデンス」より論理的に整合するエビデンスを設定することが望ましい。	「課題」の記載内容がエビデンスに基づき論理的な内容であるかを再度確認し、現在添付されている「エビデンス」より論理的に整合するエビデンスを設定することが望ましい。	p.8-14f「第2章ロジックモデルの活用1.なぜロジックモデルなのか？～3.ロジックモデルの書き方」 p.18-「5.ロジックモデルの点検-よある間違い①②」 p.20-25f「第3章エビデンスとは」	p.2f「4.課題」	<a href="#">修正事例</a>		
10	必須	問題なし	事業概要	「事業概要」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、事業の内容を簡潔に記入する必要がある。 特に、「アウトプット」や「短期アウトカム」、「長期アウトカム」との関連や対応が論理的に理解できる単位での箇条書きとする必要がある。修正に応じて、対応して記載する「アクティビティ」の記載も修正する必要がある。	p.12-14f「3.ロジックモデルの書き方」 p.18f「5.ロジックモデルの点検-よある間違い①②」	p.2f「5.事業概要」 p.3f「7.アクティビティ」～「10.長期アウトカム」	<a href="#">修正事例</a>		

ロジックモデルp.1 インプット～インパクト										
	対応 必須/ 推奨	点検結果	対象項目	チェックコメント	修正の方法・ヒント	【参考】 マニュアルの対応す るページ	【参考】 記入要領の対応す るページ	修正イメージ (リンク)	その他	【備考】 (未点検の場合に、 再点検のために修正 が必要な項目)
11	必須	問題なし	インプット	「インプット」が、記 入要領どおりに記 載されていない。	記入要領に従い、令和３年度概算要求額を記入（単位：百万円）する必要がある。なお、モデル事業の うち既存事業の場合や大幅見直し事業の場合には、令和２年度予算額と執行額（又は執行見込額）も 記入する必要がある。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」	p.2「6.インプット」			
12	必須	問題なし	アクティビティ	「アクティビティ」が、 記入要領どおりに 記載されていな い。	記入要領に従い、「アクティビティ」には、事業の実施内容を記入する必要がある。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」	p.2「5.事業概要」 p.3「7.アクティ ビティ」			
13	必須	問題なし	アクティビティ	「アクティビティ」の 記入内容が、「事 業概要」の項目と 対応していない。	「アクティビティ」の記入内容は、「事業概要」欄に箇条書きした項目と対応した項目で記入する必要がある。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」	p.2「5.事業概要」 p.3「7.アクティ ビティ」			
14	推奨	問題なし	アクティビティ	「アクティビティ」を より具体的に記入 することが望まし い。	ロジックモデルに記入した事業に含まれる施策に、「現状分析」「課題」に対応した実施事項が他にないか確認 し、該当する実施事項があれば、「事業概要」及び「アクティビティ」欄に追記することが望ましい。	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」	p.2「3.現状分析」 ～「5.事業概要」 p.3「7.アクティ ビティ」			
15	必須	問題なし	アウトプット	「アウトプット」が、 記入要領どおりに 記載されていな い。	記入要領に従い、「アウトプット」には、「アクティビティの結果として生み出される事業活動の直接的な実績」を 記入する必要がある。記入に際しては、以下の２点に留意する必要がある。 ・実績を示す指標と、令和３年度の目標値をアクティビティごとに記入する ・行政事業レビューシートの「活動指標及び活動実績（アウトプット）」の指標と同一の指標を利用する	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」 p.17-19「5.ロジック モデルの点検」	p.3「7.アクティ ビティ」,「8.アウトプ ット」			
16	推奨	修正対象	アウトプット	「アウトプット」に定 量的な指標を設 定することが望まし い。	「アウトプット」に定量的な目標・指標を設定することが望ましい。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」	p.3「8.アウトプット」			
17	必須	問題なし	アウトプット、長期ア ウトカム、長期ア ウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】設定 した指標を算出す る調査名等	「アウトプット」「短期ア ウトカム」「長期アウトカム」 に設定した指標を算出 する調査名等が記入さ れていない。	指標の算出に用いる調査名等を別紙に記入する必要がある。 ※既存調査の場合には①調査名 ②調査周期 ③直近の調査の結果確定時期 を記載。 新規調査・新たな制度による報告結果等の場合には、以下の内容を記載。 ①区分…「新規調査」「新たな制度による報告結果」等 ②調査の概要 （概要が未定の場合でも、調査予定時期を記載）	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16「4.リサ ーチデザインとは？」	p.3「8.アウトプット」 ～「10.長期アウトカ ム」			
18	必須	修正対象	アウトプット＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】アウト プット欄	「アウトプット」の目標 値（水準）の設定 理由について、適切 な理由を記入する必 要がある。	アウトプットの目標値（水準）の設定理由として、以下の条件のいずれかに当てはまる理由を記入する必要がある。適切な理由が設定できない場合には、当 該アウトプット指標を変更する必要がある。 （適切な理由の例） ・アクティビティを実施したことにより、直接的に発生する実績であること（例：委員会実施件数、研修実施回数、●●施設設置件数、印刷数等） ・アクティビティを実施したことにより、直接的に発生する実績の代理指標として客観的に妥当なもの	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」 p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」	p.3「7.アクティ ビティ」,「8.アウトプ ット」			
19	推奨	問題なし	アウトプット＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】アウト プット欄	「アウトプット」の目標 達成時期の設定理 由について、客観的 に妥当と考えられ るか再考することが望 ましい。	目標年度が令和3年度以降であるアウトプットについては、目標年度を令和３年度以降に設定しなければならない適切な理由を記載するか、アウトプットの指 標自体を変更又は目標年度を令和3年度に変更することが望ましい。  （適切な理由の例） ・「アウトプット」として設定する指標が公統計であり、事業の効果を反映した当該統計結果が令和３年度までに公表されず、令和３年度時点ではアウトプ ットが存在しないため ・「アウトプット」として設定する指標が、集計に時間を要する等の理由により、令和３年度中に把握することが困難であり、令和３年度時点ではアウトプットが 存在しないため	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16「4.リサ ーチデザインとは？」	p.3「7.アクティ ビティ」,「8.アウトプ ット」			
20	推奨	修正対象	アウトプット＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】アウト プット欄	「アウトプット」の目標 達成時期と、実際に 調査等により指標が 算出される時期を一 致させることが望ま しい。	「アウトプット」の目標達成時期と、実際に調査等により指標が算出される時期を一致させることが望ましい。 具体的には、以下の2点の確認を行い、必要な対応を取ることが望ましい。 ①「アウトプット」の目標年度、「アウトプット」に設定した指標の調査の実施予定時期に誤記がないかを確認する。 ②誤記がない場合、以下のいずれかにより対応する。 - 現在のアウトプットの指標を、目標年度までに実施予定のある（実施可能な）別の調査等により取得 - アウトプットの指標を、目標年度に取得可能な指標に変更 - アウトプットの目標年度を、調査の実施予定時期に合わせて変更	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16「4.リサ ーチデザインとは？」	p.3「8.アウトプット」			
21	必須	問題なし	短期アウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】短期 アウトカム欄	「短期アウトカム」が、 記入要領どおりに記 載されていない。	記入要領に従い、「短期アウトカム」には、「アウトプットにより国民生活及び社会経済に及ぼす影響のうち期 待する成果」の中でも短期的に期待される成果を記入する必要がある。なお、「短期アウトカム」は定量的な 指標を設定することが求められ、可能な限り令和３年度を目標年度とする必要がある。	p.9-10「2.ロジックモデル とは何か？」 p.12-14「3.ロジックモデル の書き方」 p.15-16「4.リサーチデザイ ンとは？」 p.17-19「5.ロジックモデル の点検」	p.3「7.アクティビティ」～「9. 短期アウトカム」	<a href="#">修正事例</a>		
22	推奨	問題なし	短期アウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】短期 アウトカム欄	「短期アウトカム」に 定量的な指標を設 定することが望まし い。又は、定量的で ない理由を論理的に 整合する形で説明す	「短期アウトカム」に、定量的な目標・指標を設定することが望ましい。また、定量的な目標・指標を設定でき ない場合には、その理由を「p.2 ロジックの確認①」に記入することが望ましい。	p.9-10「2.ロジックモデル とは何か？」 p.12-14「3.ロジックモデル の書き方」 p.15-16「4.リサーチデザイ ンとは？」 p.17-19「5.ロジックモデル の点検」	p.3「7.アクティビティ」～「9. 短期アウトカム」	<a href="#">修正事例</a>		
23	必須	問題なし	短期アウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】短期 アウトカム欄	「短期アウトカム」の 目標値（水準）の 設定理由について、 適切な理由を記入 する必要がある。	「短期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、客観的な視点から妥当と考えられる理由を設定 する必要がある。適切な理由が設定できない場合には、当該短期アウトカム指標を変更又は削除する必要 がある。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」	p.3「8.アウトプ ット」,「9.短期ア ウトカム」	<a href="#">修正事例</a>		
24	推奨	修正対象	短期アウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】短期 アウトカム欄	「短期アウトカム」の 目標達成時期の設 定理由について、客 観的に妥当と考え られるか再考するこ とが望ましい。	目標年度が令和3年度以降である短期アウトカムについては、目標達成時期を令和３年度以降に設定しな ければならない適切な理由を記載するか、短期アウトカムの指標自体を変更又は目標年度を令和3年度に 変更することが望ましい。	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16「4.リサ ーチデザインとは？」	p.3「7.アクティ ビティ」,「9.短期ア ウトカム」	<a href="#">修正事例</a>		
25	推奨	問題なし	短期アウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】短期 アウトカム欄	「短期アウトカム」の 目標達成時期と、実 際に調査等により指 標が算出される時期 を一致させることが 望ましい。	「短期アウトカム」の目標達成時期と、実際に調査等により指標が算出される時期を一致させることが望ましい。 具体的には、以下の2点の確認を行い、必要な対応を取ることが望ましい。 ①「短期アウトカム」の目標年度、「短期アウトカム」に設定した指標の調査の実施予定時期に誤記がないかを確認する。 ②誤記がない場合、以下のいずれかにより対応する。 - 現在の短期アウトカムの指標を、目標年度までに実施予定のある（実施可能な）別の調査等により取得 - 短期アウトカムの指標を、目標年度に取得可能な指標に変更 - 短期アウトカムの目標年度を、調査の実施予定時期に合わせて変更	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16「4.リサ ーチデザインとは？」	p.3「9.短期ア ウトカム」			

26	必須	修正対象	長期アウトカム & (別紙)【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】長期アウトカム欄	「長期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「長期アウトカム」として、「アウトプットにより国民生活及び社会経済に及ぼす影響のうち期待する成果」の中でも長期的に期待される成果であり、「課題が実現された状態（あるべき姿）」を示す項目と、その目標値を記入する必要がある。 なお、可能な限り、長期アウトカムの目標値は既存計画のKPIや目標値を参考に設定する必要がある。また、目標値の達成時期は当該事業に関連する施策の見直し時期等を踏まえて設定する必要がある。	p.9-10f「2.ロジックモデルとは何か？」 p.12-14f「3.ロジックモデルの書き方」 p.15-16f「4.リサーチデザインとは？」 p.17-19f「5.ロジックモデルの点検」	p.3f「7.アクティビティ」～「10.長期アウトカム」	修正事例			
27	推奨	未点検	長期アウトカム & (別紙)【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】長期アウトカム欄	「長期アウトカム」に定量的な指標を設定することが望ましい。又は、定量的でない理由を論理的に整合する形で説明す	「長期アウトカム」に、定量的な目標・指標を設定することが望ましい。また、定量的な目標・指標を設定できない場合には、その理由を「p.2 ロジックの確認①」に記入することが望ましい。	p.9-10f「2.ロジックモデルとは何か？」 p.12-14f「3.ロジックモデルの書き方」 p.15-16f「4.リサーチデザインとは？」 p.41-47「第5章エビデンスの収集」	p.3f「7.アクティビティ」～「10.長期アウトカム」 p.4f「1. ロジックの確認①」	修正事例			
28	必須	未点検	長期アウトカム & (別紙)【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入する必要がある。	「長期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由として、「長期アウトカム」が満たすべき以下の条件を参考として、適切な理由を設定する必要がある。  （長期アウトカムの指標が満たすべき条件） ・アクティビティ、アウトプット、短期アウトカムを経て、実現される長期的な成果を示す指標であること ・指標によって示されている「長期アウトカム」が、「課題」に対応したものであること ・長期アウトカムが実現された状態を計測可能な指標であること	p.9-10f「2.ロジックモデルとは何か？」	p.3f「7.アクティビティ」～「10.長期アウトカム」				
29	推奨	未点検	長期アウトカム & (別紙)【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、客観的に妥当と考えられるか再考することが望ましい。	「長期アウトカム」の、関連法令や既存計画の中間評価年度・最終年度・見直し年度等を参考に目標達成時期を設定することが望ましい。	p.12-14f「3.ロジックモデルの書き方」 p.15-16f「4.リサーチデザインとは？」	p.3f「10.長期アウトカム」				
30	推奨	未点検	長期アウトカム & (別紙)【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標達成時期と、実際に調査等により指標が算出される時期を一致させることが望ましい。	「長期アウトカム」に、目標達成時期と、実際に調査等により指標が算出される時期を一致させることが望ましい。 具体的には、以下の2点について確認・対応することが望ましい。 ①長期アウトカムの目標年度、長期アウトカムに設定した指標の調査の実施予定時期に誤記がないかを確認する。 ②誤記がない場合、以下のいずれかにより対応する。 - 現在の長期アウトカムの指標を、目標年度までに実施予定のある（実施可能な）別の調査等により取得 - 長期アウトカムの指標を、目標年度に取得可能な指標に変更 - 長期アウトカムの目標年度を、調査の実施予定時期に合わせて変更	p.12-14f「3.ロジックモデルの書き方」 p.15-16f「4.リサーチデザインとは？」	p.3f「10.長期アウトカム」				
31	必須	問題なし	インパクト	「インパクト」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「行政事業レビューシート」の「政策評価、新経済・財政再生計画との関係」欄のうち、「政策評価」の「施策」欄と同じ内容を記入する必要がある。その際には、当該事業が寄与すると考えられる政策レベルの最終目標を記入する必要がある。	p.9-10f「2.ロジックモデルとは何か？」	p.4f「11.インパクト」				



ロジックモデルp.2 ロジックの確認①②/効果検証方法										
	対応 必須/ 推奨	点検結果	対象項目	チェックコメント	修正の方法・ヒント	【参考】 マニュアルの対応す るページ	【参考】 記入要領の対応す るページ	修正イメージ (リンク)	その他	【備考】 (未点検の場合に、 再点検のために修正 が必要な項目)
32	必須	問題なし	ロジックの確認① (論理展開の妥 当性)	「アクティビティ」と「ア ウトプット」の因果関 係が論理的に明確 ではないため、修正 する必要がある。	「アクティビティ」の直接的な結果として生み出される"実績"を「アウトプット」の指標として設定する必要がある。	p.9-10f2.ロジック モデルとは何か？ p.21-25f2.「因果 関係」を知る	p.3f7.アクティ ビティ～f8.アウトプ ット p.4f1. ロジックの 確認①	<a href="#">修正事例</a>		
33	必須	問題なし	ロジックの確認① (論理展開の妥 当性)	「アウトプット」と「短 期アウトカム」の因果 関係が論理的に明 確ではないため、修 正する必要がある。	「アウトプット」（事業の実績）が、「短期アウトカム」（事業の成果）をもたらすことが客観的に見て明らかになるように修正するか、アウトプット又は短期アウトカムの指標を変更する必要がある。 具体的には、現在示されている各アウトプットと各短期アウトカムの関係について、以下の観点から検証し、記述を修正する必要がある。  ＜検証の観点＞ 検証①：それぞれの「アウトプット」について、「短期アウトカム」に至るまでのメカニズムを論理的に説明できるか？その中に無理のある論理展開はないか？ 検証②：それぞれの「短期アウトカム」について、「短期アウトカム」の実現に貢献しうる事業内の「アウトプット」を全て考慮した論理展開になっているか？その中	p.9-10f2.ロジック モデルとは何か？ p.21-25f2.「因果 関係」を知る	p.3f7.アクティ ビティ、f9.短期アウ トカム p.4f1. ロジックの 確認①	<a href="#">修正事例</a>		
34	必須	修正対象	ロジックの確認① (論理展開の妥 当性)	記入要領どおりに記載 されていないため、修正 する必要がある。（「短期 アウトカム」と「長期アウ トカム」の因果関係が論 理的に明確ではない。）	「短期アウトカム」（事業の短期的な成果）が、「長期アウトカム」（事業の長期的な成果）につながることを客観的に見て明らかになるように修正するか、短期アウトカム又は長期アウトカムの指標を修正する必要がある。 具体的には、現在示されている各短期アウトカムと長期アウトカムの関係について、以下の観点から検証し、記述を修正する必要がある。  ＜検証の観点＞ 検証①：それぞれの短期アウトカムについて、いずれかの長期アウトカムに対する因果関係が明確に説明できるか。 検証②：それぞれの長期アウトカムについて、いずれかの短期アウトカムからの因果関係が明確に説明できるか。（どの短期アウトカムとも論理的に因果関係を	p.9-10f2.ロジック モデルとは何か？ p.21-25f2.「因果 関係」を知る	p.3f9.短期アウ トカム、f10.長期アウ トカム p.4f1. ロジックの 確認①	<a href="#">修正事例</a>		
35	必須	問題なし	ロジックの確認① (論理展開の妥 当性)	「長期アウトカム」が 「インパクト」に至る因 果関係が論理的に 明確ではないため、 修正する必要があ る。	「長期アウトカム」（事業の長期的な成果）が、「インパクト」（当該事業が寄与すると考えられる政策レベルの最終的な目標）をもたらすことが客観的に見て明確になるように修正するか、長期アウトカムの記載を修正する必要がある。 具体的には、現在示されている長期アウトカムとインパクトの関係について、以下の観点から検証し、記述を修正する必要がある。  ＜検証の観点＞ 検証①：それぞれの長期アウトカムについて、当該長期アウトカムがインパクトに影響をもたらす因果関係を明確に説明できるか。 検証②：それぞれの長期アウトカムがインパクトに影響をもたらすうえで想定すべき外部要因（事業以外で前提となる制度改定、社会動向等）は過不足なく	p.9-10f2.ロジック モデルとは何か？ p.21-25f2.「因果 関係」を知る	p.3f10.長期アウ トカム、f11.インパ クト p.4f1. ロジックの 確認①			
36	必須	問題なし	ロジックの確認② (課題解決の手 段としての当該事 業の妥当性)	「ロジックの確認 ②」の記入内容 が、記入要領ど おりに記載されてい ない。	記入要領に従い、課題解決の手段としての当該事業の妥当性を示す説明を記入する必要がある。 その際には、①・②の双方に触れながら、論理的に説明する必要がある。 ①当該事業が課題解決の手段として効果があることを示すエビデンス（学術研究、既存の類似事業の実績・効果、モデル事業の実施結果など） ②当該事業を行う上で、その内容（開催場所、調査・開催件数、アプローチ対象等）が他の候補と比べて妥当であることを示すエビデンス	p.13f3.ロジックモ デルの書き方-手順2 目標から逆って、取 り得る政策手段の選 択肢を洗い出す」	p.6f2. ロジックの 確認②	<a href="#">修正事例</a>		
37	必須	問題なし	ロジックの確認② (課題解決の手 段としての当該事 業の妥当性)	「ロジックの確認 ②」にエビデンスが 記入されていな い。	記入要領に従い、妥当性を説明するだけでなく、そのエビデンスを添付するとともに、概要を「ロジックの確認②」欄に記入する必要がある。 記入に際しては、以下に該当するエビデンスの双方を添付する必要がある。 ①当該事業が課題解決の手段として効果があることを示すエビデンス（例：学術研究、既存の類似事業の実績・効果、モデル事業の実施結果など）  ②当該事業を行う上で、その内容（開催場所、調査・開催件数、アプローチ対象等）が他の候補と比べて妥当であることを示すエビデンス （例：学術研究、対象となるモノの集積状況、他事業における実績等）	p.13f3.ロジックモ デルの書き方-手順2 目標から逆って、取 り得る政策手段の選 択肢を洗い出す」 p.20f1.エビデンスと は何か	p.6f2. ロジックの 確認②			
38	推奨	問題なし	ロジックの確認② (課題解決の手 段としての当該事 業の妥当性)	「ロジックの確認②」のエビ デンスが、課題設定に対して アクティビティが効果的であ ること（課題に対する対応 策としてアクティビティが成 立していること）を示す根 拠として客観的に妥当と考 えられるか再考することが望 ましい。	「ロジックの確認②」に記載されているエビデンスについて、課題設定に対してアクティビティが効果的であることを示す根拠として、より適切なエビデンスを記入することが望ましい。	p.20-25f第3章エ ビデンスとは	p.3f7.アクティ ビティ p.6f2. ロジックの 確認②	<a href="#">修正事例</a>		
39	推奨	問題なし	ロジックの確認② (課題解決の手 段としての当該事 業の妥当性)	「ロジックの確認②」のエ ビデンスが、当該事業の 内容が、他の想定される 事業と比較して妥当であ ることの根拠として客観 的に妥当と考えられるか 再考することが望ましい。	「ロジックの確認②」欄に、当該事業の内容が、他の想定される事業と比較して妥当である客観的な根拠となるエビデンスを記入することが望ましい。	p.20-25f第3章エ ビデンスとは	p.6f2. ロジックの 確認②	<a href="#">修正事例</a>		
40	推奨	問題なし	ロジックの確認② (課題解決の手 段としての当該事 業の妥当性)	「ロジックの確認②」 のエビデンスのレベル を向上させることが望 ましい。	それぞれのエビデンスについてエビデンスレベルを確認し、レベル1～3に向上させることが望ましい。  ＜参考＞エビデンスレベル レベル1：ランダム化比較実験 レベル2a：差の差分分析、傾向スコアマッチング、操作変数法 レベル2b：重回帰分析、コホート分析 レベル3：比較検証、記述的な研究調査 -----	p.3f1.EBPMとは 何か？ p.20-25f第3章エ ビデンスとは	p.6f2. ロジックの 確認②			
41	必須	問題なし	効果検証方法	記入要領どおりに記 載されていない （「短期アウトカム」 の効果検証方法が 具体的に記入されて いない。）。	「短期アウトカム」の効果検証方法を、効果検証の対象となる短期アウトカムの指標、考えられる検証の方法（調査の方法、分析の方法）、実現可能性等が明確になるように、具体的に記入する必要がある。 上記に伴い、短期アウトカムの指標等に変更が生じた場合には、別紙「各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由」の対応箇所を変更する必要がある。	p.12-14f3.ロジック モデルの書き方」 p.26-40f第4章 施策の効果検証」	p.3f9.短期アウ トカム p.6f3. 効果検証 方法」	<a href="#">修正事例</a>		
42	推奨	修正対象	効果検証方法	「短期アウトカム」の 効果検証方法によ り得られるエビデ ンスのレベルを向 上させることが 望ましい。	それぞれのエビデンスについてエビデンスレベルを確認し、レベル1～3に向上させることが望ましい。  ＜参考＞エビデンスレベル レベル1：ランダム化比較実験 レベル2a：差の差分分析、傾向スコアマッチング、操作変数法 レベル2b：重回帰分析、コホート分析 レベル3：比較検証、記述的な研究調査 -----	p.3f1.EBPMとは 何か？ p.20-25f第3章エ ビデンスとは	p.3f9.短期アウ トカム p.6f3. 効果検証 方法」			
43	推奨	修正対象	効果検証方法	「短期アウトカム」の 効果検証方法を、 対照群と比較して 事業の効果を計測 できるように設計 することが望ましい。	「短期アウトカム」の効果検証の方法は、可能な範囲で事業の効果が及んでいない対照群との比較による方法を設計することが望ましい。	p.12-14f3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16f4.リサ ーチデザインとは？ p.26-30f1.基本 的な考え方」	p.3f9.短期アウ トカム p.6f3. 効果検証 方法」	<a href="#">修正事例</a>		
44	推奨	修正対象	効果検証方法	「短期アウトカム」の 効果検証方法を、 外部要因を考慮した 設計とすることが望 ましい。	「短期アウトカム」の効果検証の方法は、極力外部要因を排除して事業の効果を計測する方法とすることが望ましい。	p.21-24f2.「因果 関係」を知る （特に「（2）第 三の要因（交絡因 子）による可能性 （3）偶然である 可能性）」	p.3f9.短期アウ トカム p.6f3. 効果検証 方法」	<a href="#">修正事例</a>		
45	必須	修正対象	効果検証方法	記入要領どおりに記 載されていない （「長期アウトカム」 の効果検証方法が 具体的に記入されて いない。）。	「長期アウトカム」の効果検証方法を、効果検証の対象となる長期アウトカムの指標、考えられる検証の方法（調査の方法、分析の方法）、実現可能性等が明確になるように、具体的に記入する必要がある。 上記に伴い、長期アウトカムの指標等に変更が生じた場合には、別紙「各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由」の対応箇所を変更する必要がある。	p.12-14f3.ロジック モデルの書き方」 p.26-40f第4章 施策の効果検証」	p.3f10.長期アウ トカム p.6f3. 効果検証 方法」	<a href="#">修正事例</a>		

46	推奨	未点検	効果検証方法	「長期アウトカム」の効果検証方法により得られるエビデンスのレベルを向上させることが望ましい。	それぞれのエビデンスについてエビデンスレベルを確認し、レベル1～3に向上させることが望ましい。  <参考> エビデンスレベル レベル1：ランダム化比較実験 レベル2a：差の差分分析、傾向スコアマッチング、操作変数法 レベル2b：重回帰分析、コホート分析 レベル3：比較検証、記述的な研究調査	p.3f1.EBPMとは何か？ p.20-25f第3章エビデンスとは	p.3f10.長期アウトカム p.6f3.効果検証方法			#REF!
47	推奨	未点検	効果検証方法	「長期アウトカム」の効果検証方法を、対照群と比較して事業の効果を計測できるように設計することが望ましい。	「長期アウトカム」の効果検証の方法は、可能な範囲で事業の効果が及んでいない対照群との比較による方法を設計することが望ましい。	p.12-14f3.ロジックモデルの書き方 p.15-16f4.リサーチデザインとは？ p.26-30f1.基本的な考え方	p.3f10.長期アウトカム p.6f3.効果検証方法	<a href="#">修正事例</a>		#REF!
48	推奨	未点検	効果検証方法	「長期アウトカム」の効果検証方法を、外部要因を考慮した設計とすることが望ましい。	「長期アウトカム」の効果検証の方法は、極力外部要因を排除して事業の効果を計測する方法とすることが望ましい。	p.21-24f2.「因果関係」を知る （特に「（2）第三の要因（交絡因子）」による可能性（3）偶然である可能性）	p.3f10.長期アウトカム p.6f3.効果検証方法	<a href="#">修正事例</a>		#REF!